

受領No.1562

## 現代社会における「寄付」行為の意味再考 —個人の語りに着目した社会学的研究

代表研究者 岡田 彩 東北大学大学院 情報科学研究科 准教授

### Revisiting the Meaning of “Giving” in the Contemporary Society: Sociological Approach with Focus on Individual Narratives

Representative Aya Okada, Graduate School of Information Sciences, Tohoku University, Associate Professor



#### 研究概要

現代社会において、「寄付」は、どのような意味を持つ行為として理解され、実践されているのか。本研究は、金銭や物資の「寄付」など、他者や社会に寄与する帰結を伴う行動を取る個人を取り上げ、その経験の語りから、「寄付」行為の意味を再考するものである。近年、「寄付」は人々の日常生活により身近な存在となってきた。そこには、ネット上や電子マネーでの「寄付」、クラウドファンディングやふるさと納税を円滑にするプラットフォームの登場など、人々が日常生活の中で「寄付」しやすい技術的環境が整備されてきたという背景がある。また、大規模災害やコロナ禍など、支援を要する人々の存在が顕在化し、「寄付」機会に関する情報に接する機会が増えていることも考えられる。こうした社会環境の変化を受け、日常化した「寄付」という行為に、人々は、どのような意味を見出しているのか。本研究は、「寄付」が、他者や社会に役立つという側面だけでなく、寄付者が自らの価値観や信条、考えを体現する行為でもあり得るという立場から、「寄付」経験に関する質的インタビューとその分析を通して、現代社会における社会貢献行動の新たなダイナミズムを明らかにするものである。